

仙台YMCA東日本大震災支援対策室

被災地と被災者のことを忘れず、支援を続ける

仙台市だけでなく、石巻市、東松島市、名取市、南三陸町、七ヶ浜町、山元町、亶理町、多賀城町など沿岸部を中心に、広範囲にわたって仮設住宅や在宅避難の人たちを支援し、今は復興住宅へ移った人たちを支えています。

街の復興は確かに進んでいますが、復興住宅での高齢者の孤立など、本当の意味ではまだまだです。被災地を忘れないように情報を発信し続け、聖書にもある“見えないものに目を注ぎます”を忘れず、できる支援をしていきます。
(仙台YMCA総主事 村井伸夫)

2011年3月、震災直後から避難所となった仙台YMCAは、YMCAの経験とスキルを生かすことができた。3月18日までみんなで支え合い、ルールを決め、不安を乗り越えた。



3月22日より「仙台YMCAボランティア支援センター」として、国内外からのボランティアの拠点となり、広範囲の地域を支援。現在も、東日本大震災支援対策室として働きを継続。



2011年3月から、甚大な被害を受けた野蒜小学校の子どもたちのために始まった活動「がんばろう! のびるっ子!」。その後、このレクリエーション支援活動はのびる幼稚園、南三陸町、山元町の小中学校の子どもたちへも広がった。

あの時の感謝の気持ちを

普段、車いすで自立作業所に通うA君も避難者からの理解と協力を得て避難生活を続けた。あの数日間、たくさん会話をし、みんなと過ごした経験は貴重だったと、今もA君が年に一度、感謝を込めて作業所で製造しているカレーを持って来てくれる。



震災直後は、全国からの支援物資を東京YMCA妙高高原ロッジに一度集め、ワイズメンズクラブが中心となり仕分けをして仙台YMCAへ届けた。届いた物資のすべてをリスト化し、各地域へ配布した。



サッカー教室の中学生たちが次の支援活動のために、使用した手袋を洗う。(写真は2011年4月)



2011年4月、社協の紹介で、津波で被害を受けた岩佐いちご農園の支援を開始。ヘドロやゴミの撤去、ハウスの組み立てなど、機械では難しい支援活動を続けた。



2012年1月に実ったいちご。

シアトルからのボランティアが雨水をためておくプールを作った。(写真は2012年5月)



今も、ハウス内の掃除、雑草抜き、遮光シート張りなどを手伝う。(写真は2012年秋)



全国で実施された、三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ。「仙台YMCA&越河小学校スプリングキャンプ」は安比高原(岩手県)で実施。3日目ともなると、すっかり笑顔。(2013年3月)



夏冬のキャンプ、サッカーなどで子どもたちは共に育つ。(写真は2014年7月)

2012年11月、南三陸町役場と全国YMCA専門学校が、協働して「南三陸町訪問介護員養成研修」を実施した(女性の就労と高齢者の支援が目的)。



和歌山YMCA国際福祉専門学校の学生が、宮城県の特別養護老人ホーム「みやま荘」で足浴・手浴のサービス。皆さんからの「気持ち良かった」の声が、学生たちの力になる。(写真は2013年夏)

地域の光となる人びと



鳴瀬被災者サポートセンター・センター長 片岡君江さん

震災の次の年、東松島市鳴瀬流灯花火大会が再開できることになり、YMCAさんに出店をお願いしました。また、仮設住宅の方との交流や花壇作りなどの支援は、地域の方々が互いのつながりを強めるきっかけになりました。これからも街作りをしていく活動にぜひお手伝いをしていきたいと思います。



片岡さんが担当した東松島市響仮設住宅。仮設住宅では集会場でのプログラムの他、草むしり、網戸洗い、窓掃除、集会場掃除などを手伝う。

2011

3.11
東日本大震災
東北地方
太平洋沖地震

2012

3/28
プレハブ仮設
住宅建設開始
(6/15:1,505
戸完成)

2013

12/28
農地内がれきの撤
去完了(東部津波
被災地域)

6/5
住宅再建支援制
度受付開始(東部
津波被災地域)

2014

4/1
仙台市地域防災
計画全面修正

3/16
県道塩釜亶理
線等かさ上げ
道路着工

2015

7/10
復興公営住
宅2,447戸
の入居申込
受付開始

2/14
1カ所目の津波
避難施設「中野
五丁目津波避難
タワー」完成

2016

3/12
仙台防災未来フォー
ラム2016開催

6/30
復興公営住宅
3,206戸整備
完了

9/30
海岸公園避難の丘
全4カ所完成

10/28
プレハブ仮設
住宅の供与終了

2017

やっぱり、人の力が何より頼り

山元いちご農園 岩佐 清さん

YMCAの皆さん、ボランティアの皆さんにはただただ感謝です。震災後、土は塩分を含んでるし、機械類もポンプも電照(※)も全部だめ。車も流されて……そんな中、もう一度、いちごを作ろうなんて思いもしませんでした。

でも、行政からのボランティア派遣を通してYMCAの村井さんが訪ねて来て、「やってみようかな」と思ったんです。うちが元気になったら、他にも「やろう」と思う人が増えるんじゃないか、って……。現在、震災前に120人いた町の生産者は、50人ちょっとです(※)。

確かに減りましたが、今初めて山元町にきた人たちが建ち並ぶいちごのハウスを見たら、なんとなくのどかな感じがして、震災がどんなものだったか、分からないでしょうね。最近うちも、ようやくハウス周りに花を植えました。それまで生活で手いっぱいでしたが、妻が花が好きで、植えたんです。

震災後は、とにかくすごい匂いでしたよ。ヘドロやら何やらいろいろな物が混ざった、何とも言えない匂いでした。今も、防波堤にぶち当たる白波、防風林をなぎ倒す津波を思い出すと、ぞっとします。

畑に来ていただいたボランティアさんは、延べ1万人は超えます。YMCAさんは国内だけでなく、海外からも来てくれました。シアトルの人たちが掘った水をためるプール(4m×10m×1m(深さ))は、今も使っています。彼らはものすごく力持ちで、びっくりしましたね。周りは大量のヘドロや瓦礫だらけ。一番大きなハウスは流されずに残りましたが、その中でもヘドロで土が見えなかったんです。それらをボランティアの皆さんが全部かきだしてくれました。通常、ハウス



震災後発生したハツカネズミからハウスを守る猫たち

内の畝と畝の間の土の上に黒いビニールを敷いています。そのビニールの上にヘドロがのってしまったんです。ビニールと一緒にになったヘドロの撤去は力も根気もいる作業でしたが、全部皆さんやり遂げてくださいました。家族だけでは到底できない作業です。ボランティアさんたちと一緒にハウスも建てました。

今は出会いが財産だと思っています。やっぱり最後は人の力です。お金があっても、機械でも、人がいなくてはどうにもならなかった。私たちにできるお返しは、おいしいいちごを作ること。うちは震災前から土の力で育てる土耕栽培を続けています。やっぱり味が違いますからね。だから皆さん、食べにきてください。

※電照栽培：電灯の明かりを調整して作物を栽培。

※山元町と隣の亘理町は「東北一のいちご生産地」でした。自慢の品種は「もういっこ」。しかし津波で農園は全滅し、海水の塩分が土壌や地下水に浸透して、いちご農園を諦める生産者も大勢いました。



畝の長さ50m。畝の間(48力所)にたまった泥などをかき出した



土から栄養をもらったいちご、「もういっこ(品種名)」



ボランティアの人たちと建てたビニールハウスの前で



●仙台YMCAが活動したところ

仙台YMCA所在地：仙台市青葉区立町9-7

支援から何を学び、未来へ何を継承するか

Learning 学び

◆避難所としての活動。さまざまな立場の人が安心できる場所を確保した。

◆全国のYMCAが物資を被災地に届けた。

◆自分たちの組織を守ることの大切さ。それがなければ支援はできない。地元スタッフの疲弊を防ぐ。

◆全国の学生やワイズメンなどのボランティアの力とニーズをつなげた。

◆子どもたちの心を癒すYMCAの活動(野蒜小学校)。

◆地元にあるYMCAとして支援を続ける。

◆いちご農家と共に6年。生業を支え続ける。

Inheritance 継承

●避難所運営は、非日常のマネジメント。その経験を他被災地避難所運営につなげる。

●YMCA施設の強みを生かして、避難者のニーズに対応。プール、シャワー、炊事用具など。

●被災地と近隣YMCAへの物資の支援システムの構築。

●被災したYMCAを支える。全国スタッフの支援の連携。

●全国からスタッフ、学生、ボランティアが応援に。そこから学び、次の防災、被災地支援へ。

●子どもたちの遊び場と権利を確保する大切さ。

●人びとの生きがいと生活に寄り添う。

COLUMN 支援者を支える①

災害支援者のためのメンタルケア

YMCAでは、東日本大震災「支援者の心のリフレッシュプログラム」を、2014年より2泊3日のスケジュールで2016年度まで9回実施し、現在も継続しています。その内容は、「支援する意識」から自身が「ケアされる」意識に切り替えるための①震災復興支援における自身の被災体験・支援者仲間との体験・支援者をケアした体験などを話し合い、支援活動の大切さと難しさ、喜びや有能感など今までの経験を共有するプログラム、②緊張を緩和させるためのアイスブレイク(レクリエーション)。さらに、③心の荷下ろしプログラムとして、リラクゼーションの中で日常の自分を見直す時間を持つ、ストレスとの向き合い方・解決方法の学びや自然体験などとなっています。

(帝京平成大学名誉教授 中谷三保子)

